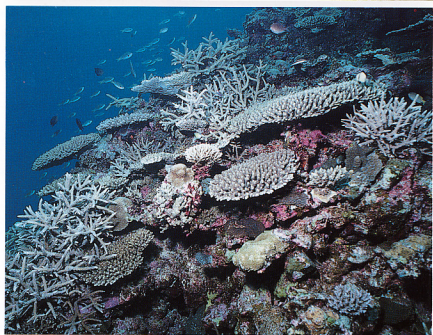
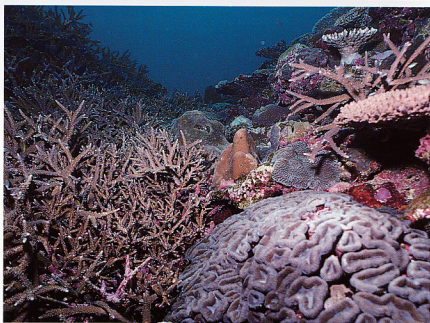


日本のサンゴ群集

日本の海岸に現在みられる造礁サンゴの種数は、約400種である。群集の組成は、世界でもっとも種の多様性が大きい場所の1つであるフィリピン諸島と、基本的には近い。サンゴ群集は、琉球列島から九州、本州南岸にかけて分布するが、北へ行くほど種数は減少し、群集の組成が変化する。サンゴがつくるサンゴ礁の地形も、北ほど小規模になり、種子島より北では地形としてのサンゴ礁をつくらない(オーストラリア海洋科学研究所, J.E.N. Veron; 構成: 地質調査所海洋地質部 茅根 創)。



1. (上)八重山諸島のサンゴ礁。島々とサンゴ礁とが浅い海を取り囲み、石西礁湖と呼ばれる(国士館大学 長谷川均撮影)。
2. (中)枝状ミドリイシ、塊状ハナガタサンゴなど多様性の高い石西礁湖のサンゴ群集(Veron撮影)。
3. (下)慶良間諸島では、日本でも最も美しいサンゴ群集が見られる。群集は、枝状・盤状ミドリイシ(Veron撮影)。

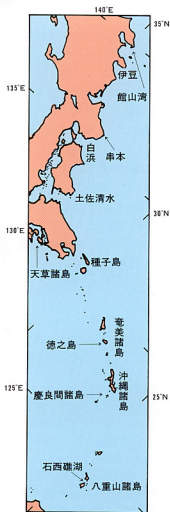
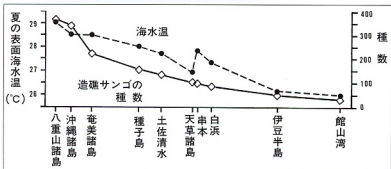


4. (左)徳之島の塊状のウミバラ科のサンゴほか (Veron撮影).

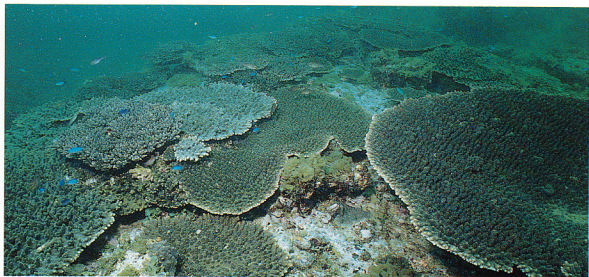


5. (左)徳之島では、島に接した裾礁が断続的に続く (茅根撮影).

各地点で同定されたサンゴの種数は、南端の八重山諸島で359種と最大で、緯度とともに減少して、館山湾では35種になる。この多様性の減少は、基本的には海表面温度の減少と対応している (Veron: 下図).



地図(上): Veronによる調査地点と口絵の撮影地点。



6. (上)天草諸島のサンゴ群集。サンゴが地形としてのサンゴ礁をつくらない種子島以北では、テーブル状のミドリイシが卓越するようになる (Veron撮影)。

7. (右)串本のサンゴ群集。テーブル状のミドリイシとともに大型の藻類が多くなる (Veron撮影)。

8. (左下)串本では、サンゴは岩盤をパッチ状に覆う (財団法人海中公園センター提供)。

9. (右下)館山湾のサンゴ群集。岩盤上、大型藻類の間に、塊状のサンゴが点在する (茅根撮影)。

